

12月9日 近大奈良キャンパス内里山にある絶滅危惧種ニッポンバラタナゴの新生息池の水抜き、採り上げ作業を実施します

近畿大学農学部（奈良市中町、学部長：宇都宮直樹）では、環境管理学科水圏生態学研究室（北川忠生講師）が、奈良県自然環境課との協力の下、絶滅の危機に瀕しているコイ科魚類のニッポンバラタナゴの保護活動に取り組んでいます。

奈良県希少野生動植物保護計画に基づいた保護活動の一環として、平成22年度より、ニッポンバラタナゴの生息池を奈良キャンパス内の里山ビオトープの中のため池に創出する試みに取り組んでいます。2年目にあたる2011年12月9日（金）に、環境管理学科水圏生態学研究室の3年生の実習で、池の水抜きの後、池に入っているニッポンバラタナゴ採りあげ作業を行います。

ニッポンバラタナゴは、近年まで九州中北部と香川県、大阪府でのみで生息が確認されていましたが、2005年に同研究室が新たに奈良公園内の池で生息しているところを発見。以来、近畿大学農学部内で繁殖させ、キャンパス内で系統保存を続けています。生息地の環境が悪化し、絶滅の危機に瀕しており、危険分散のためにも新たな生息池を必要としています。

初年度である平成22年度は、残念ながらニッポンバラタナゴの繁殖は確認できませんでした。しかし2年目にあたる本年度の夏期には、沢山の稚魚が池の表層に群れをなして泳いでいる姿を確認しています。今回は、池の水を抜き、全ての個体を採りあげて個体数の調査を行います。

水を抜いた池はしばらく水を抜いた状態で乾かした後に、後日、底にたまったヘドロ（有機物）を掻き出します。ヘドロは、翌年、池に隣接する棚田の肥料として活用します。この里山ビオトープでは、このような伝統的な里山の池の管理の実習を通して、ヒトの活動と貴重な野生動植物が共存できる空間作りを目指しています。

奈良キャンパス内の
ニッポンバラタナゴの新生息池
(希少魚ビオトープ)



【ニッポンバラタナゴについて】



大阪府、香川県と九州中北部のみに分布するとされていた日本固有亜種。全長は最大で約5 cm近くになり、約1年で成熟する。寿命は約2年。かつては、琵琶湖淀川以西の本州ならびに四国の瀬戸内平野と熊本平野、筑紫平野を中心とした九州中北部に分布していた。しかし、近縁外来亜種タイリクバラタナゴの侵入や河川開発、水質悪化といった環境悪化により、地域によってほぼ全滅ないし分布は確実に縮小しつつある。具体的な個体数は不明。（環境省ホームページから抜粋・要約）

奈良県では、奈良県版レッドリストの絶滅寸前種に指定され、奈良県希少野生動物種の保護に関する条例で特定希少野生動物種に選定されています。

- ① 日時 平成23年12月9日（金）13:00～16:30 <雨天決行>
- ② 場所 近畿大学奈良キャンパス 希少魚ビオトープ
- ③ 対象 環境管理学科3年生 26名
- ④ 指導者 近畿大学農学部 講師 北川 忠生
学生指導員 1名

取材を希望される場合、下記まで事前連絡の上、当日12:30までに近畿大学農学部（〒631-8505 奈良市中町 3327-204）の正面玄関に集合して下さい。担当者が誘導します。

連絡先 北川

e-mail: tkitagaw@nara.kindai.ac.jp

TEL: 0742-43-6372（北川直通）

FAX: 0742-43-1593